

# 産業廃棄物焼却炉建設についての要望書

都市クリエイト株式会社 殿

2017年4月11日

大阪楽所 代表

SAVE THE 鶴殿ヨシ原 ~雅楽を未来につなぐ 代表

中川 英男 〒

Tel

Fax

雅楽協議会 世話人

鈴木 治夫 〒

Tel

Fax

貴都市クリエイト株式会社が、高槻市梶原中村町に産業廃棄物焼却施設の建設計画について要望いたします。

現在の産業構造からして産業廃棄物焼却炉は必要なものである事は認識しており、貴都市クリエイト株式会社にての事業は、現在の産業を支える重要な事業であると認識し敬意を抱いております。

しかし、今回 焼却炉の建設予定とされる場所は上牧・鶴殿ヨシ原より 800mと近い場所であるということで、雅楽にとっても多大な影響を受ける場所であることから、建設場所については充分考慮していただき、今回の場所での焼却炉の建設計画は変更していただきたく要望するものです。

## 雅楽は世界最古のオーケストラ 世界から見直され注目されている

雅楽は今から 1400 年余り前、大陸から伝えられた音楽や舞と日本古来の音楽や舞とが 1000 年前の平安時代に融合し完成され、管楽器、絃楽器、打楽器による音楽に舞も加わった総合芸術として現代に伝えられているものです。1000 年前より伝えられている管絃の合奏ということから雅楽は世界最古のオーケストラとも呼ばれています。宮内庁式部職楽部の雅楽は国の重要無形文化財（いわゆる人間国宝）及びユネスコの無形文化財に指定されています。雅楽は日本の誇る世界の文化として世界の文化財でもあります。

ですからアメリカ ニューヨークのコロンビア大学、ハワイのハワイ大学、ドイツではケルン大学に学生による雅楽の演奏団体も誕生し、イタリア ローマ大学では雅楽の講座も開催されるなど世界各地で活発な演奏活動と研究が行われています

## 管楽器の箏箵の蘆舌（リード）は上牧・鶴殿のヨシに限る

### 最良のヨシの生育地 世界の中でも唯一の地

雅楽で使用する管楽器は笙（しょう）・箏箵（ひちりき）・笛の 3 種類で、中でも主旋律を担当するのが箏箵と言うリード楽器です。リード楽器ですので、リードの質によって音色が変わってきます。この箏箵に使用する蘆舌（リード）は、昔から上牧・鶴殿のヨシが最高とされ使用されてきま

した。

ここのヨシが最良であるという事は、古い書物にも書き残されています。

江戸時代に書かれた『楽家録』には「箏の蘆舌の蘆は古くから鶴殿に生える蘆を用いる。ここの蘆は固くしまっているから」と記されており、また明治4年には当時の宮内省が「鶴殿の芦の刈り取りを願い出た」という記録を残しています。

江戸時代寛政十年刊行の『摂津名所図絵』では「其の名声は世に高く、特に本地の蘆は箏の簧に最も適するを以て之を貢献し、古来獨り（ひとり）其の名を擅(ほしいまま)にせり」と書かれ、貢物として献上されたことも分かっています。江戸時代には箏の最良の蘆舌（リード）が使われていました。

最良のヨシを使用することによって雅楽の音色が伝えられてきています。

私たちは1000年以上昔からの音色をこれからも後世に伝えていきたいと願っています。

古くから使用されて来たヨシですが、残念ながら1960年代の淀川の工事などによりヨシの質が低下するという状況が続き、箏に適するヨシを求めて、利根川のヨシや琵琶湖のヨシ、そして中国のヨシまでも試してみましたが、上牧・鶴殿のヨシの質を越えるヨシはありませんでした。

その後 地元の方々などのご努力により、少しずつ箏のリードとしての質も回復してきました。そして現在も上牧・鶴殿のヨシが、最高の箏の蘆舌（リード）として使用されています。

宮内庁楽部は、ここのヨシのみを使用しています。箏の蘆舌の最良のヨシは、世界でもこの上牧・鶴殿の地でしか生育しないのです。

### もし、ここ上牧・鶴殿のヨシが使用できなくなると 雅楽の死を意味する

焼却炉が建設されると、排出される有害物質が「安全である規制値以内」という少量であったとしても10年、20年、50年、100年と続くとその影響を無視することは出来なんでしょう。また高槻市のハザードマップによると5mの浸水地域で、近年の想定を超えた大雨による洪水時には、あたり一帯、ヨシ原も汚染が想定されます。さらに100年、200年、500年先も、焼却炉の有害な汚染物質の影響が全くないとは考えられません。

箏の蘆舌（リード）は口に含んで演奏するものなので、汚染物質には敏感にならざるを得ません。材質は良くても口に含むと危ないということになるとここのヨシは使用できないということになります。

繰り返しになりますが、雅楽の中で箏は、主旋律を受け持ち、その音色が雅楽の音色を決定付けます。上牧・鶴殿の葦から奏でられる箏の音色は、雅楽の音色として平安時代の昔から親しまれてきました。ここの葦が使用できなくなると、雅楽の音色の死を意味するでしょう。

私たち雅楽を愛し、演奏するものとして、平安時代から受け継がれてきた、箏のリードとして使用する最高品質の上牧・鶴殿の葦を私たちの世代で絶滅させてしまうことはできません。

世界に誇る日本の文化を後世に伝えるためにも貴都市クリエイティブ株式会社の産業廃棄物焼却炉の建設については、変更していただきたくお願いいたします。